

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	児童一人一人の理解度に応じた学習活動を工夫し、目的意識をもって主体的に学ぶための教育活動を推進する。	中 間 評 価	校内研究を柱として、どの子にも分かった、できたを実感させられる授業改善の取組を実践している。	最 終 評 価	
環境づくり		全学年において、共通の学習規律を徹底して指導し、児童が主体的に学習に臨める学習環境をつくる。		学習規律の徹底を全学年で実践することで、児童が集中して学習に取り組めるようになりつつある。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで聞くことが難しい場面もある。 平仮名の読みは概ね理解している。書きは「は」「を」「へ」の使い方が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章として書くことを苦手とする児童がいる。 片仮名の読み・書きがまだ定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度作文に取り組む。授業中でも書く活動を意図的に取り入れる。 週に一度朝学習で片仮名の学習プリントに取り組みさせる。 		
	算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算・ひき算の計算は概ね理解している。 具体物を動かす場面を多く取り入れることで、計算の方法が分かってきた。最近では指も使わずに計算をすることができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を理解して演算決定することが難しい。 10のまとまりをつくるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演算決定するために、キーワードとなる言葉に着目させ、色分けをする活動を取り入れる。 10のまとまりをつくるために、具体物・半具体物を使った活動を必ず取り入れる。 		
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学友達のスピーチを聞き、質問や感想を言うことができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと聞くことについて最後まで相手意識をもって取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことを中心に取り組んでいく。 聞いたことをメモにとってまとめる活動や観点を与えて聞く活動に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことに対しては、聞き方のルールを確認し、視点を設け、ペア学習を通して少しずつ聞く姿勢が身に付いてきた。引き続き取り組んでいく。 話すことでは、話す観点をもち意識していく。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学足し算や引き算の計算は、比較的身に付いている児童が多い。いろいろな考え方や、積極的に説明することでは個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算をすることはできるが、説明する力や文章題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをノートにまとめ、ペアや全体の友達に説明することに取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図や文にまとめることに時間がかかる児童が見られる。友達の考え方を学ぶことを通して、多様な考え方や書き方を身に付けさせていく。 	
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 調全体的に全国平均ぐらいの結果となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的な児童が多いが、「書く」課題に苦手意識があり、取り組むまでに時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに抵抗がなくなるよう、2週に1回の朝学習の時間を使い、簡単な題材で「書く」経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感想を書く場面を増やし、短い文を書く活動を繰り返すことで、書くことへの抵抗を減らせるようにした。また、朝学習では月に1度、書く活動を取り入れた。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 調数と計算の領域では、全国平均よりも上回っている。量と測定の領域では、全国平均より下回っており、特に、知識・理解が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習熱心で与えられた課題に集中して取り組む児童が多い。時刻と時間の学習や分数の表し方を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに基礎的な学習を定着させるために、単元ごとに既習を振り返らせ、理解を深めさせる。 新しい学習に取り組むときも、今まで使っていた方法が使えるように、学習の進め方、解き方も既習となるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の学習では、整数や小数の学習を振り返りつつ学習を進めることで、基礎・基本の定着を図る。 どの単元でも、問題把握から立式までの活動を十分に行い、問題解決のための見通しをもつ活動をしっかり行わせたため、新しい単元になっても既習を生かして解決できるようになってきた。引き続き問題への取り組み方を指導していく。 	
4	国語	<ul style="list-style-type: none"> 調全体的に全国の平均を少し上回っているが、区の平均は下回っている。特に、読むことの領域が低く、読み取り能力を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、長い文章に対して苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を手元に用意し、こまめに辞書を引く習慣を付ける。語彙数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を用意し、分からない言葉があった時にはすぐに調べる習慣が付いてきている。引き続き、辞書を活用させながら語彙を増やしていく。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 調どの領域も全国平均を上回っており、A層の比率が高い。特に図形では、作図等も正確にできる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的な児童が多く、理解力も高い。得意不得意の差が大きい。 C層D層の底上げが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> どの単元でも、めあてと学習の見通しをもつ時間を設け、自分でまとめられるように指導していく。 苦手な児童には基礎的な学習を個別に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導を繰り返した結果、自主的に見通しをもって学習をすすめられる児童が増えた。 苦手な児童には、個別に指導を繰り返した結果、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。引き続き指導していく。 	
5	国語	<ul style="list-style-type: none"> 調すべての観点で、区の平均を下回っており、特に「書くこと」の正答率が低い。語彙の習得が十分でなく、全般的な底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに苦手意識が強い児童が多く、自分の考えをもつてもそれを表出することが難しい。 語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の徹底とともに、学習スタイルの確立を行い、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。 書くことに関しては、感想を書く際は観点を示すことで、それについての考えを書けるようにする。 国語辞典を常備させ、意味調べや漢字調べを行う中で語彙の習得を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに関して、感想を書く際、「自分だったら」という観点を必ず取り入れるようにしたことで、文章量が増えてきた。今後は、内容を吟味し、自分の考えや思いを明確にして書けるようにする。 国語の時間だけでなく、他の教科の時間にも積極的に国語辞典を活用する姿が見られるようになってきた。引き続き、語彙の習得を図っていく。 	

	算数	<p>調全体的に全国平均よりも低い正答率となっている。特に関心・意欲の項目の正答率が低い。D層の割合が高く、52%の児童が占める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に指導が必要な児童が多く、集中力に差が見られる。 ・児童一人一人の集中力を持続させ、確かな学びを保障することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室でのルールを確立し、話の聞き方、ノートの取り方などを定着させることで、学習への意欲を高めていく。 ・確かな学びを保障することで、基礎的な学習を繰り返し行い、知識・理解を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室でのルールが徹底されてきたので、さらに集中力が高まるよう指名したり、確認したりしていく。また、定着していない児童には、引き続きノート指導や話を聞くときの態度など一つ一つ個別に指導していく。 ・既習の定着が薄い児童も多いので、学年を超えて、基礎・基本の学習を繰り返し、定着を図る。
6	国語	<p>調すべての観点で、平均を下回っている。学習の底上げが必要。文章の表現力を向上させることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをどのように文章に書き表せばよいか分からない児童が多い。 ・書くことに対して、苦手意識をもっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに対する苦手意識を取り除く必要がある。そのために、読む単元で登場人物の気持ちなどを、短い文章で書かせる。 ・書くことが難しい児童に対しては、定型文を提示して文章を書かせていく。 ・よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、語彙を増やすとともに文の組み立て方などを覚えさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む単元で、登場人物の気持ちなど、短い文章で書くことを繰り返し行った結果、文章を書くことに対して、苦手意識が減り、表現力が向上してきた。 ・自分の考えを書き加えることには、表現が稚拙であったりどう書いてよいか分からなかったりという課題がある。どのように書けばよいかについて、よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、書き方を覚えさせていく。
	算数	<p>調全体的に全国平均より低く、D層に60.9%、A層には8.7%の児童が占める。領域では、図形が全国平均より25.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な考え方が苦手な児童が多く、課題等の意図を読み取ることが苦手である。個に応じた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取り組み方の等を指導する場面を増やし、学習の見通しを立てさせる。話を聞きのがさないように、書くこと聞くこと考えることをまとめて活動させていく。 ・指名したり、振り返ったり、確認したりしながら、集中を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が定着しつつあるので、引き続き学習を受ける態度を育て、聞くとき、考えを伝えるときの区別をはっきりさせ、集中力を高める。 ・個に応じて既習を振り返らせつつ、D層の引き上げを図る。
音楽	<p>学意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組める児童もいるが、個別の支援を必要とする児童も多い。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの活動で、運指が覚えられない児童が数名いる。器楽が苦手で、意欲が高まらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で指導したり、友達同士でのペア学習を多く取り入れたりして、鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能の定着を図っていく。 ・視覚的に分かりやすく説明したり、スモールステップで練習したりすることで、技能の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運指の確認や、余裕のあるゆったりした活動を多く取り入れたことで、鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能が定着した児童の割合が増えてきている。音楽会もあるので、スモールステップで指導を継続していく。 	
図工	<p>学意欲的に制作できる児童が多い。図工が苦手な児童には、個別に支援し、丁寧な指導を行っている。また、本やインターネットを活用し、作品に活かす児童も多い。児童が理解しやすいように、実物投影機や写真などを提示し、授業を進めている。毎時間、声掛けや掲示をし、安全第一を心掛けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況に差ができるため、制作の進行状況が異なる。 ・全学年、授業規律を徹底し、安全第一を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて、進行状況を把握し、指導や声掛けを行う。アイデアが浮かばない児童には、本やインターネットを自主的に活用するように指導する。 ・授業規律を徹底するため、授業前に掲示物で手順等を示し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアが浮かばない児童や活動が進まない児童には、興味のある事を考えるよう指導したり、本を勧める等随時声掛けをしたりしている。そのため、活動を進められる児童が増えてきている。 ・児童の作品のよいところを褒め、学習意欲を高める。 ・今後も、はさみ等の危険な道具は、写真や実物投影機などで掲示しながら、安全第一を心掛けて怪我のないよう、授業を行う。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。